

6月の理事会で審議できなかった案件について臨時に理事会が開催された。

フレキシブルな対応が可能になる競技規則

クラス

高齢者クラスで、A、BのついていないクラスはAクラスか、Bクラスか解釈が分かれていた。今回これらのM70、W65などにAクラスが設けられ、わかりやすくなった。

Bクラスについてはかなり自由な統合が認められ、L、Sのような距離によるクラス分けもコントローラの同意で可能になった。

またNクラスは初心者を対象としたクラスであり、競技規則で縛るべきものではないということで、削除することになった。

初心者についてはトリム(フィットネス)0との連携をはかることで、対応可能であるし、若年層においてはM10クラスなどとのすみわけもわかりにくかった点も解消される。

実施は平成17年1月1日のため、今年度の全日本大会に初めて適用されるので、新たなAクラス参加者のうち競技者登録をしていないかたは一時登録が必要になる。

幅広い種目への対応

従来、ロング種目のみを念頭において作成されていた競技規則であるが、ミドルやスプリントも広く採用されるようになってきており、それらを競技規則に織り込むことが検討されてきた。

ミドル種目が全日本大会の出場資格を問う、公認大会やJOA主催大会に認められ、今秋の大高緑地大会が公認大会として承認されたことはNo.4でもお知らせしたとおり。

地図の縮尺についても、スプリントは1:5000が原則であることとなり、1:7500などもより競技性を高めるためには使用可となった。

これらは競技規則に織り込まれ、提供されることになる。

競技については公認大会の増加策、JOA主催大会のブロック制の見直し、コントローラ制度の見直しなど課題は多く残っており、競技専門委員会の増強の声もでています。また、今回の改正について、コントローラへの説明が行

われる。

徒歩0からフィットネス0へ

昨年3月の全国指導者研究協議会で発表されたフィットネス0について、規程が承認された。

これに伴い、長年付き合ってきた徒歩オリエンテーリング実施基準が廃止された。

普及や体力づくりなど幅広いオリエンテーリングを行うための手引きのような形で使える内容である。

海外への対応1歩進む

WOCの開催期間中に開催されるプレジデント会議に尾上理事を派遣

また、対応が遅れ気味でIOFの信頼を損なっていた海外対応については、青木、村越両理事を担当理事候補として今後話を進めることになった

全日本大会は初のJOAと静岡県協会の共催事業スポーツエントリーを使う際のことを考慮して共催を承認

平成17年度全日本は？

今だ決まらない平成17年度全日本大会については今秋には結論を出そうということで、さまざまな形で検討を進めることになった。

- ・人材不足に悩む福岡県に周辺県が協力して開催？
- ・WOCの産物「高品質マップ」を生かし、インカレに併設する形で愛知で開催？
- ・開催時期を6・7月などにして、長野や北海道？
- ・東京が周辺県のトレインを利用して？

その他

安心して回れ、広く活用してもらえるパーマネントコースを目指し、進行中。

主催・公認大会規程についてトレイル0を適用させるために修正を行なっていく。

広報委員会活動案・選手強化特別委員会の報告が行われた。

(小野盛光)